

秋田県内大雨災害の対応について

株式会社 眞宮技術

眞宮 昌

平成29年7月22日(土)秋田県内では記録的な大雨に襲われ、大雨による被害としては過去最大の被害額となった。弊社社員の居住地区でも避難指示・避難勧告がなされ、比較的災害が少ないとされる秋田県としては忘れられないものとなった。



1. 雄物川氾濫調査

7月23日(日)午前8時過ぎに秋田河川国道事務所から(一社)東北測量設計協会との災害協定により弊社へ協力要請があったため、取り急ぎ社員を招集し事務所へ打合せに出向いた。弊社は UAV による雄物川氾濫調査を依頼され、小一時間の打合せの後、会社に戻り飛行計画を急いで済ませ、12時前には準備を早く終えた第1班を先発隊として秋田市雄和の現場へと向わせた。秋田河川国道事務所から予め交通規制及び通行止めの情報は聞いていたものの、予想以上の交通規制があり迂回迂回を余儀なくされ、秋田市雄和の現場まで通常40分の道のりに3時間を要することになった。30分後、後発の第2班は第1班の情報を基に全く別ルートから現地に向かい、第1班より早く現場に到着した。結果、日没まで2,3時間しかない状況となったが、UAV2機で2班に分かれ全10カ所の撮影をぎりぎり無事終わることが出来た。なお、作業終了後も迂回を繰り返しようやく帰社することが出来たのは19時であった。帰社後すぐに解析を行い、20時には撮影画像を提出した。機体を日常点検していたことや予備バッテリーを保持していたことにより、日曜日の当日撮影にも対応できたが、日頃の事前準備や心掛けの大切さを思い知らされた。交通規制による通行止め及び交通渋滞により大変苦勞し、地元の測量会社として日頃から道路網の把握(近道、抜け道、別ルート)や情報収集の重要性を再認識した日でもあった。



2. 秋田県、秋田市からの災害協力要請

程なくして、秋田県県土整備コンサルタント協会及び秋田市測量建設コンサルタント協会との災害協定により、県内各地域振興局及び秋田市からも協力要請があった。弊社においては例年より通常業務が幸いにも多く業務を抱えていたが、地元測量会社の使命であると腹をくくり、数十カ所の現場に対応した。その中には現場まで車で行けない・倒木流木が支障となる等々困難な条件の現場も多かったが、膨大な作業量を工期が短い中でなんとか対応できた。



まとめ

今回の大雨災害では人的被害がなかったことがせめてもの救いだったが、災害対応は時間との闘い。社員には残業残業休日出勤と大変苦勞をかけるものであった。働き方改革が注目されている昨今であるが、十分な配慮はできなかった。災害はいつやってくるかわからないことを頭に入れ、日頃から測量会社として協力できることを認識しておく大切さを改めて痛感する経験となった。